



## 夏草を雑草と呼ぶ大雑把

明神正道

「大雑把」の表現には、それぞれ名があるのに申し訳ないという気持ちを感じられる。高く茂って細かく分類できない夏草の勢いもよく出ている。

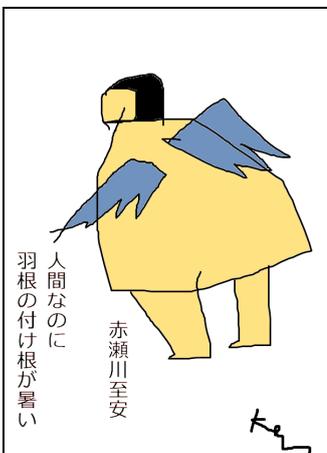
。



## 我が影の我を離れぬ大暑かな

名本敦子

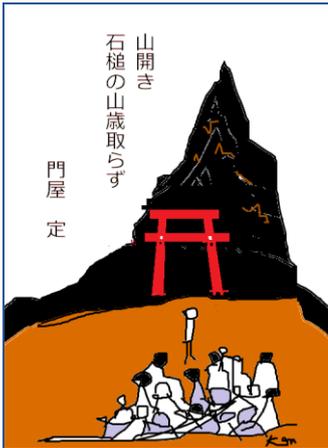
光強ければ影の濃し。ゲーテの名言の一つである。黒々とした影が何処へ行ってもまとわりつく鬱陶しさよ。影を書くことで暑さが強調された。



## 人間なのに羽根の付け根が暑い

赤瀬川至安

一見、散文のように見せてちゃんと十七音になっている。「背中が暑い」では当たり前で詩がない。羽根の付け根は人体の場合、肩甲骨辺りだろう。



## 山開き石槌の山歳取らず

門屋 定

山に年齢があるとは考えたこともない。変わらない風景を、歳を取らないと表現したのは実に見事。自然界はいつまでも若々しくいてもらいたい。



## 蛙にまだ告げてない田はやめました

鈴木和枝

農業人の心は大自然やそこに生きる小動物と一体。米作りをやめると決心したが、まだ知らせていない相手がいる。蛙には仁義を切らなくちゃ。



## この汗が生きてる証拠滴れる

吉川正紀子

冷房の中では汗もかかぬが、炎天に出れば汗が無尽蔵と思われるほど出て驚く。その汗に、自分が生命体であり、生きていることを実感する。